

GREEN

全農長野県本部情報 グリーンリーダー

Rader

2026

5

Vol.564



A-R eports

- | | | | |
|--|---|----------------|---|
| ・「会員会議」を開催 | 1 | ・令和7年度 定年退職者紹介 | 7 |
| ・令和7年産米の販売状況を説明 | 2 | ・令和8年度 新採用職員紹介 | 7 |
| ・「中野市・JA中野市 きのこトップセールス」を開催 | 2 | ・今月のおすすめレシピ | 8 |
| ・米国における「信州プレミアム牛肉」のPR・販売促進活動
～Natural Products EXPO WEST 2026出展およびMitsuwaフェア視察～ | 3 | ・5月のラジオ番組表 | 8 |
| ・信州プレミアム牛肉を「和牛ワールドオークション2026」に出品 | 4 | ・編集後記 | 8 |
| ・「第52回長野県ブラック&ホワイショウ」を開催 | 5 | | |
| ・長野県産アルストロメリアを都内の新入生へ贈呈 | 6 | | |
| ・厚生連に福祉車両を贈呈 | 6 | | |



光と風と水のハーモニー
JA全農長野

(改革推進・企画課)

「会員会議」を開催

J A全農長野は会員会議を3月26日(木)、長野市のJ A長野県ビル13階特I会議室において、会員J AのWeb出席により開催しました。

眞島実運営委員会副会長が議長を務め、「令和8年度事業計画」を付議し、原案どおり承認されました(=表紙左上)。

■令和8年度事業計画要旨■

総供給販売高計画を2,800億円とします。

「農業振興事業」では、マーケット動向や地域実態、担い手ニーズを踏まえ、担い手推進センターの生産・販売提案、支援機能を発揮し、J Aと一体となった生産振興を図ります。また、気候変動による高温や激甚化する災害への生産安定化対策として、排水対策技術や施設化の提案、栽培技術の検討を進めます。あわせて、機械化や省力栽培技術、農業DXの推進を通じた作業効率化を進め、生産基盤の維持・拡大に取り組みます。

「生産販売事業」は、生産者手取りの最大化を実現するため、卸売会社との連携強化や実需者営業の拡充、輸出や加工・業務対応の強化に取り組みます。また、J Aとの連携を強化し未利用・低利用生産者に対する系統利用の拡大を図ります。高温耐性品種を含めた長野米の需要に基づく生産と直接営業の強化により有利販売を進め、長期的な生産者所得の安定化を目指します。輸送面では、関係法令を遵守した上での持続可能な物流体制を構築し、トータルコスト抑制に向けた施策の推進に取り組みます。

「生産購買事業」は、段ボール・フィルム等について、安定供給と品質保持を前提に適正包装を進め、コスト低減を図ります。また、物流環境の変化に対応するため、パレット輸送に適合した資材開発を進めます。肥料・農薬については、BB肥料の原料・成分見直しによる低コスト銘柄の開発や農薬の需要結集による価格抑制を通じた生産コストの低減とあわせて、担い手ニーズに応える資材や先進技術、「みどりの食料システム戦略」対応資材の普及を進めます。農業機械分野では、スマート農機の普及や県域重点型式・共同購入コンバインの重点購買、中古農機の流通拡充を通じ、生産コスト低減を図ります。

「畜産酪農事業」は空舎活用や生産者の規模拡大支援を通じ、生産基盤の維持と販売数量の確保を図ります。また、中信地区における営農指導体制の整備や、県本部生産農場の機能発揮と経営収支の安定に努めます。生産者所得の確保に向けて、信州産畜産物のブランド認知度向上による販売力強化や「信州プレミアム牛肉」輸出拡大に取り組むほか、PR活動を通じた生乳の消費拡大に取り組みます。令和9年度末を目途とする松本食肉施設の閉鎖対応については、行政や関係機関と連携・協力して進め、県産食肉の流通体制を堅持します。

「くらし支援事業」では、仕入強化とWeb化対応を進め、顧客の固定化・新規獲得による石油類のシェア確保を図ります。LPガス事業では、ホームエネルギー取扱体制の整備と新たな小売事業方式の検討を進めます。SS協同経営では、J A事業との連携強化や非接触決済の普及・LINEを活用した情報発信により顧客の固定化を図り、ライフラインSS協同経営方式の展開を通じ地域インフラの維持を進めます。eコマースでは「J Aタウン」への出品内容拡充により取扱高の拡大に取り組みます。セレモニー事業では、多様化する葬儀形態に対応し、件数・シェア確保に繋がる虹のホールグループ活動に取り組みます。

今後も県本部総合経営管理制を堅持し、県域結集の拡大と結集成果を反映した会員・組合員へのメリット還元に努めてまいります。

米穀課

令和7年産米の販売状況を説明

J A全農長野米穀課は3月27日(金)、長野県内のマスコミに対し、長野市のA・コープファーマーズ南長野店で、令和7年産米の販売状況を説明しました。

いわゆる“令和の米騒動”による需要が落ち着き、現在の販売量は米騒動前と同水準となっています。7年産米の販売開始から半年が経過し、同店での売れ行きも米騒動前の水準に戻っています。(株)長野県A・コープ商品第2課の樽田博儀課長は「より多くの方を買っていただくことが農家の支援になる」と話し、7年産の新米が出荷された当初から税抜き3,000円台の価格を設定しています。「3月は週末にセールを入れられるようになった」とし、同日から3日間は通常より400円安い3,590円(5kg・税別)で店頭に並びました。

7年産米の需要見通しが示された中で消費者の米離れを防ぎ、消費拡大を促そうと、米穀課では5月から「春のお米キャンペーン」を実施します。キャンペーンシールが貼付された対象商品を2点購入して応募していただくと、抽選で150名様にお米券をプレゼントするという内容です。キャンペーンは長野県内が対象で、池田吉隆米穀課長は「様々なお米が流通している中で、ぜひ長野県産米を食べていただきたい」と呼び掛けました。



記者の質問に答えるA・コープ、米卸売会社、米穀課の担当者



売場に潤沢にならぶ長野県産の令和7年産米

東京販売事務所

「中野市・J A中野市 きのこトップセールス」を開催



市場関係者にきのこの詰め合わせを手渡す湯本市長(左から2人目)と望月組合長(右から2人目)

4月4日(土)、東京都中央卸売市場大田市場において東京青果(株)の協力のもと「中野市・J A中野市きのこトップセールス」が開催されました(=表紙下)。

長野県北部に位置する中野市は、昼夜の寒暖差と適度な降水量に恵まれた自然環境を背景に、果物・きのこ・野菜・花きなど多彩な園芸品目を生産する農業の盛んな地域です。なかでも『きのこ』は日本有数の産地として知られ、特に“えのきたけ”は、生産量日本一を誇ります。

会場となった東京青果(株)イベントコーナーには、収穫前の菌床ビンも並び、普段目にする出荷形態と見比べながら、きのこの生育過程や産地ならではの工夫に触れられる展示となりました。

中野市の湯本隆英市長からは、「信州中野のきのこを市場関係者の皆様のお力添えをいただき、全国へ広めていきたい」と、軽快な語り口で呼びかけがありました。

また、J A中野市の望月隆代表理事組合長からは、全国一の生産量を誇るえのきたけをはじめとするきのこ類のPRに加え、これから出荷が開始されるアスパラ、施設栽培のサクランボ・ブドウの紹介もあり、「令和8年度も信州中野の農産物をよろしくお願いします」と、集まっていた市場関係者の皆さんに向け、熱い想いが述べられました。

挨拶後には湯本市長・望月組合長自ら、市場関係の皆様へきのこの詰め合わせを手渡しました。

全農長野東京販売事務所は、今後も関係J A・事業所と連携し県産農産物のPRに努めてまいります。

(畜産酪農課)

米国における「信州プレミアム牛肉」のPR・販売促進活動 ～ Natural Products EXPO WEST 2026 出展およびMitsuwaフェア視察～

J A全農長野畜産酪農課は、長野県が出展したNatural Products EXPO WEST 2026に長野県企業の8店舗のうち1店舗として、現地で販売を行う「ORiGO DREAMS」(京都：フレイバー・プラザ現地法人)と共に、「信州プレミアム牛肉」のPR・販売促進活動を実施しました。

今回は、世界最大級の展示会への出展と、現地小売店舗での販売フェアを通じて、米国市場での可能性を探りました。

■期 間：令和8年3月3日(火)～3月8日(日)

■訪問先：カリフォルニア州アナハイム (アナハイム・コンベンションセンター)
カリフォルニア州アーバイン (Mitsuwaアーバイン店)

1. Natural Products EXPO 2026への出展



信州プレミアム牛肉の試食を受け取るバイヤー

この展示会は、45回目を迎える世界最大級のナチュラル・プロダクト展示会で、110以上の国と地域から約3,200社が出展し、約6万人の来場者を集めました。食品を中心に幅広い分野が紹介され、国際的なビジネス交流の場となっています。

3月4日(水)から6日(金)までの3日間、販売を伴わないPR展示として、信州プレミアム牛肉の魅力を紹介し、試食提供を行いました。信州プレミアム牛肉は、ロサンゼルスに拠点を置くORiGO DREAMSを販売窓口とし、同社スタッフおよび日本側関係者の計5名体制で、試食や商談に対応しました。来場したバイヤーや飲食関係者からは、肉質や味わいに高い評価が寄せられました。

2. Mitsuwaアーバイン店「信州プレミアム牛肉フェア」視察

ORiGO DREAMSが取引を行う日経スーパーマーケットMitsuwa (ミツワ) アーバイン店において、3月5日(木)から4日間、「信州プレミアム牛肉フェア」が開催されました。現地では、実際の販売状況や消費者の反応を確認するとともに、店舗関係者と意見交換を実施。米国消費者の購買行動や価格帯への理解を深め、今後の販売拡大に向けた課題と可能性を把握する機会となりました。

3. 現地で得られた知見と今後の展望

今回、初めて海外の大規模展示会に参加し、日本と米国における牛肉の食文化の違いを改めて実感しました。

日本では薄切り肉を使った焼肉やすき焼き、しゃぶしゃぶが主流ですが、米国ではステーキ文化が中心で、特にロイン系の部位が好まれる傾向があります。

一方で、日本式の食べ方への関心も徐々に高まっており、部位や調理方法を工夫することで、新たな需要開拓の可能性も感じられました。

また、米国では「A 5 W A G Y U」「Japan W A G Y U」など多様な和牛ブランドが流通していますが、



信州プレミアム牛肉の売場

日本産和牛の高い品質は広く認知されています。

信州プレミアム牛肉についても、その確かな品質と背景を丁寧に伝え、“味で選ばれるブランド”として継続的にPRしていくことの重要性を改めて認識しました。

展示会およびフェアを通じ、現地のバイヤーや飲食関係者に直接体験いただいたことで、今後の輸出拡大に向けた手応えを得ることができました。

4. 今後の取り組み

今後は、フレイバー・プラザおよびORIGO DREAMSと連携し、米国市場における信州プレミアム牛肉の認知度向上と需要拡大に、引き続き取り組んでまいります。

また、秋にはニューヨークで「全国知事会Japan Food EXPO」の開催が予定されており、今回の経験を生かしたPR強化を進めます。

併せて、長野県営業局が推進するカナダ向け輸出についても、新たな販路開拓の可能性を検討してまいります。

畜産酪農課

信州プレミアム牛肉を 「和牛ワールドオークション2026」に出品



初日の銘柄和牛食べ比べに並んだ信州プレミアム牛肉

和牛マスター輸出拡大コンソーシアム主催による「和牛ワールドオークション」が、4月3日(金)から4日(土)にかけて、和牛マスター食肉センター（兵庫県姫路市）において開催されました。本イベントは、世界各国から牛肉取扱事業者（バイヤー）やレストラン経営者、シェフを招き、日本が誇る和牛および各地域の銘柄牛の魅力を発信し、質の高い日本産和牛の認知度向上と輸出拡大を目的としたものです。

本年度で4回目を迎えた和牛ワールドオークションには、昨年に引き続き信州プレミアム牛肉を上場しました。初日は、海外バイヤーを対象に、銘柄和牛の食べ比べや、海外で人気の着

物姿で肉をさばく「和牛着物ブッチャー（肉職人）」によるカット実演など、多彩な催しが行われました。

2日目に行われたオークション（セリ）には、米国、カナダ、EU、台湾、オーストラリアなど12の国と地域から約120名のバイヤーが参加。神戸牛、仙台牛、松阪牛、近江牛をはじめ、全国の名だたる22銘柄の和牛、計72頭が出品され、会場は大いに賑わいました。各銘柄和牛からチャンピオン牛が選ばれ、信州プレミアム牛肉は8,810円/kgという高値でカナダのバイヤーに競り落とされ、その高い品質が改めて評価されました。出品された他の牛も4,500円/kg以上で取引され、信州プレミアム牛肉3頭のうち2頭は米国のバイヤーが落札しました。

米国では、3月に開催された「Natural Products EXPO」においても信州プレミアム牛肉の試食PRを実施しており、今回のオークションを通じて、今後さらなる販路拡大が期待されます。

畜産酪農課では、今後も米国をはじめとした和牛輸出事業の拡大に向け、市場関係者や輸出事業者との情報交換、海外バイヤーの視察対応などに積極的に取り組み、生産者の所得向上に努めてまいります。あわせて、信州プレミアム牛肉をはじめ、信州和牛や信州アルプス牛の国内外における消費拡大にも引き続き力を入れていきます。

畜産酪農課

「第52回長野県ブラック＆ホワイショウ」を開催

長野県ホルスタイン改良同志会（事務局／ＪＡ全農長野畜産酪農課）は３月２０日（金）、小諸市の小諸家畜市場で「第52回長野県ブラック＆ホワイショウ」を開催しました。

このショウは、長野県内の代表的なホルスタイン種を一堂に集め、その改良水準を比較検討するとともに、今後のホルスタイン種の改良の方向性を探り、生産者同士の交流を促進することを目的に、例年春と秋の年２回開催しています。酪農の更なる発展に寄与する重要な取り組みとして、長年にわたり継続されています。

今回は、長野県内の生産者が手塩にかけて育てた３９頭の乳牛が出品され、月齢ごとに第１部から第１５部に分けて審査が行われました。審査員には、（有）萩原牧場より萩原一禎氏を、審査アシスタントには、静岡県ホルスタイン改良同志会より岩崎健太郎氏をお迎えし、各出品牛について体型バランス等の審査講評をしていただきました。

審査の結果、グランドチャンピオンには、新海益二郎さん（所属／野辺山クラブ）のラツキーマーシュウイロウ ナギー、リザーブグランドチャンピオンには、小林政幸さん（所属／浅間ブリーダーズ）のスプレンドール アプリコット メリツク リコツタが選ばれました。

また、第１５部ジュニアリードマンの審査では、小学生から高校生までの参加者が牛を引く技術を競いました。その結果、中学生以下の部では新海江見美さん（南牧村立南牧南小学校）、高校生以上の部では清水空那さん（群馬県立吾妻中央高校）が、それぞれベストリードマンに選ばれました。

当日は寒さの続く一日となりましたが、県内を中心に多くの出品があり、若き酪農家の熱気あふれるショウとなりました。また、県内外から多くの酪農関係者が参観に訪れ、有意義な情報交換の場ともなり、今後の県内酪農事業の発展に寄与する機会となりました。

今後も畜産酪農課では、酪農家同士の相互交流を深めるとともに、乳牛の改良および生産の一助となるよう、引き続き取り組んでまいります。



グランドチャンピオンに選ばれた
ラツキーマーシュウイロウ ナギー



出場した選手と関係者

(東京販売事務所)

長野県産アルストロメリアを都内の新入生へ贈呈

J A全農長野東京販売事務所と長野県アンテナショップ「銀座NAGANO」は、4月8日・9日の2日間、長野県産の色鮮やかなアルストロメリアを、中央区立泰明小学校・幼稚園の新入生に贈呈しました。本取り組みは、両者の共同企画として毎年実施している恒例の活動です。

今年は、J A上伊那産の旬のアルストロメリアを用意しました。ボリューム感があり、日持ちにも優れることから、家庭用をはじめ花束などさまざまなシーンで高い人気を誇る花です。

アルストロメリアの花言葉は「未来へのあこがれ」。新たな学校生活をスタートさせる新入生へのエールとしてふさわしいこの花が手渡されると、子どもたちからは笑顔があふれ、会場は春の訪れを感じさせる和やかな雰囲気になりました。



総務広報課

厚生連に福祉車両を贈呈

J A全農長野は社会貢献活動の一環として、J A長野厚生連に福祉車両を6台贈呈しました。3月24日(火)には長野市の長野松代総合病院で贈呈式を開き、全農長野の長谷川孝治県本部長が長野厚生連の洞和彦理事長に目録とゴールデンキーを手渡しました。

長谷川県本部長は「地域の公的医療機関の要である厚生連への寄贈は、本会にとって大きな喜びです。

ぜひ地域医療に役立てていただきたい」と挨拶しました。これに対し、洞理事長は「全農さんには福祉車両、コロナ禍における衛生用品の支援と、本当に困っている時に助けていただいています。皆様の意思に沿えるよう、活動したい」と感謝の言葉をいただきました。

福祉車両の寄贈は2019年以来13回目となり、今回の6台を加え93台となりました。寄贈車両は長野松代総合病院のほか、佐久総合病院、南長野医療センター篠ノ井総合病院、北アルプス医療センターあづみ病院、鹿教湯三才山リハビリテーションセンター、富士見高原医療福祉センターで活用されます。



洞理事長（中央）に目録を手渡す長谷川県本部長（左）とゴールデンキーを持つ長野松代総合病院の瀧澤勉統括院長（右）

令和7年度 定年退職者紹介



2列目左から 井出 光俊、宮澤 秀実、森田 陽一、島田 忠之、小林 正明、小古井 聡、臼井 克彦、佐藤 剛
1列目左から 豊森 俊行、小池副本部長、長谷川本部長、神農会長、根津副本部長、高木 昭彦、尾澤 正之

対象者は太字で表記

令和8年度 新採用職員紹介



2列目左から 塩澤 美月、渋沢 直人、春原 諒大、竹内 利文、三浦 理未、宮崎 咲衣
1列目左から 加藤 光、小池副本部長、長谷川本部長、眞島副会長、根津副本部長、川手管理部長、木寄 悠太

対象者は太字で表記

JA全農長野の事業現況

令和7年度3月末総供給販売高実績表 (単位:百万円、%)

品目	区分	当年度実績	計画比	前年比
生産振興課		73	108	111
野菜種苗センター		202	101	116
生産振興部計		275	103	115
米	穀	24,735	121	111
果実花き		50,984	95	94
野菜きのこ		71,918	97	96
営業		14,659	92	97
生産販売部計		162,295	99	97
農業資材		11,983	96	101
肥料農薬		10,960	105	105
農業機械		6,917	113	108
施設住宅		4,745	113	90
生産購買部計		34,605	104	102
畜産酪農		32,987	103	101
三岳牧場		255	77	83
S P F繁殖センター		276	86	102
八ヶ岳牧場		288	93	95
畜産酪農部計		33,806	103	101
燃料・ホームエネルギー		26,496	105	94
S S 協同経営		7,446	111	94
くらし支援		7,424	99	94
くらし支援部計		41,367	105	94
長野県本部計		272,260	101	98

(内部販売高含む)

5月のラジオ番組表

放送日時	放送局	番組名	出演
5/12(火) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんの ずくだせえぶりでい内 「いい」JAん家庭菜園	JA佐久浅間 JAファーム佐久店
5/27(水) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんの ずくだせえぶりでい内 「暮らしの応援団」	畜産酪農課

経友会情報

令和8年度更埴経友会定期総会が、4月7日に千曲市のホテル亀屋本店にて開催されました。16名の会員が参加され、JA全農長野からは長谷川本部長と安武北信事業所長が出席。事業報告では7年度総会前に会員より地元ふるさと文化遺産である「松代雅楽」の演奏披露や秋季交流会が報告されました。「松代雅楽」は地元の武水別神社の新嘗祭でも演奏されています。

さらに総会では8年度活動計画、役員改選などが決議されました。旧役員会長の中村秋博さんをはじめ他役員の皆さん、2年間大変お疲れ様でした。新体制は次のとおりです。

《新役員》

会長：南澤和夫さん
副会長：町田信二さん・佐藤 明さん
会計：北村 実さん
監事：春日 勉さん・兼澤 隆さん

今月のおすすめレシピ レタスとアスパラの回鍋肉



【材料(2人分)】

レタス……………1/2個
アスパラガス……………3本
豚薄切り肉……………80g
ニンニク(みじん切り)… 小さじ1
ねぎ(みじん切り)… 大さじ1
生姜(みじん切り)… 小さじ1
赤唐辛子(小口切り)… 1/2本分
★赤みそ……………大さじ1
★砂糖……………大さじ1
★酒……………大さじ1
★醤油……………大さじ1/2
★鶏ガラスープ……………大さじ1
ごま油……………大さじ1

【作り方】

- ①レタスは大きめにちぎり、アスパラガスは斜めに切ります。
- ②★を合わせておきます(調味みそでも良い)。
- ③ごま油でニンニク、ねぎ、生姜、赤唐辛子を炒め、豚肉をいれて火が通ったらアスパラガス、レタスをさっと炒め★をいれて調味します。



レタスとアスパラはさっと炒めることでシャキシャキ感が楽しめます！
白いご飯に合うこと間違いなし！

グリーンレーダー
X(旧ツイッター)はこちら



グリーンレーダー
WEB版はこちら



編集後記

春の風が心地よい季節となりました。木々は薄緑色の新芽を次々と芽吹かせ、新緑が目にしみるほどに緑を深めています。みずみずしい緑に包まれると、自然と心も穏やかになります。本格的な農繁期を迎え、畑では稲刈りやえんどうの花を咲かせ、まもなく収穫の時期を迎えます。風味を生かしく、味噌汁や煮物でいただくのが楽しみです。また、きゅうりやなす、ピーマン、ししとう、とうもろこし、ブロッコリーなど、さまざまな野菜も植えまじりました。今年4月には、ブロッコリーが52年ぶりに指定野菜に追加されました。鮮やかな緑色が印象的で、ビタミンやミネラルをバランスよく含み、野菜としては珍しくたんぱく質も摂取できる優れた食材です。引き締まった蕾に凝縮されたうま味と食感も、魅力のひとつといえるでしょう。春の食卓を彩る緑豊かな野菜の季節です。目を楽しみ、栄養をいただける恵みを感じながら、作物を育て、収穫する喜びを味わってください。(一)



春には春の
JA全農長野です。



光と風と水のハーモニー

JA全農長野



光と風と水のハーモニー

JA全農長野



JA 全農長野ホームページ…………… <https://www.nn.zennoh.or.jp>
インターネットで産地直送「JA タウン」…………… <https://www.ja-town.com>

